

研究・調査報告書

報告書番号	担当
525	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Osteopenia in alcoholics: effect of alcohol abstinence. アルコール中毒患者における骨減少症：断酒による効果	
執筆者	
Alvisa-Negrin J, Gonzalez-Reimers E, Santolaria-Fernandez F, Garcia-Valdecasas-Campelo E, Valls MR, Pelazas-Gonzalez R, Duran-Castellon MC, de Los Angeles Gomez-Rodriguez M.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Alcohol. 2009 Sep-Oct;44(5):468-75. Epub 2009 Jun 17.	
キーワード	
アルコール依存症、骨減少、断酒、介入研究	
要 旨	
<p>目的： この研究の目的はアルコール中毒患者における骨密度 BMD、骨塩量 BMC、オステオカルシン、血清テロペプチド、PTH、およびビタミン D を評価すること、また、6 ヶ月間の断酒によりこれらのパラメーターが変化するかどうか判断することである。</p> <p>方法： 血清オステオカルシン、インスリン様成長因子 1(IGF-1)、テロペプチド(40 人)、および 1, 25 デヒドロビタミン D は 28 人の対照患者と 77 人のアルコール中毒患者で測定され、アルコール中毒患者のうち 48 人が 6 カ月後に再評価された。すべての患者は、研究開始時と 6 カ月後に、Hologic QDR-2000(Waltham, MA, USA)骨密度計により、全身の骨密度 BMD を評価された。</p> <p>結果： アルコール中毒患者は対照患者と比べて、血清テロペプチドが高く(0.59 ± 0.40 対 0.19 ± 0.10 nmol/100ml, P< 0.001)、IGF-1 [中央値= 49, 四分位範囲 IQR= 31-121ng/ml 対 135, IQR= 116-237ng/ml, P< 0.001]、ビタミン D [26.5, IQR= 17.0-37.8pg/ml 対 82.4, IQR= 60.9-107.4pg/ml, P< 0.001]、オステオカルシン(2.1, IQR= 1.1-3.6ng/ml 対 6.65, IQR= 4.9-8.8ng/ml, P< 0.001)は低かった。またアルコール中毒患者は、BMD 値、Z および T スコアが多く骨格レベルでより低下しており、全ての BMC が減少していた。6 カ月後、飲酒を継続していた群は骨量が減少しており、一方断酒群では変化なし、もしくは増加を示し、特に骨盤、右上腕での測定値、総 BMD および BMC で差が認められた。同時に断酒群ではオステオカルシンの有意な増加を認めた(継続群では減少していた)。血清テロペプチドは両群で増加した。</p> <p>結論： エタノール摂取は、骨減少症を来し、血清オステオカルシンを減少させる。これらは断酒により改善するが、エタノール摂取を継続した場合は更なる悪化を示す。</p>	